

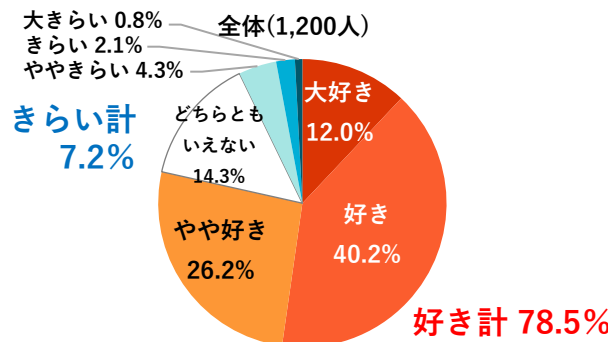
博報堂教育財団 こども研究所が小4～中3に聞いたトピックス調査「令和の学校」の結果を発表

小中学生*の8割は「学校が好き」。 それでも半数近くは「朝、学校に行きたくないと思うことがある」。

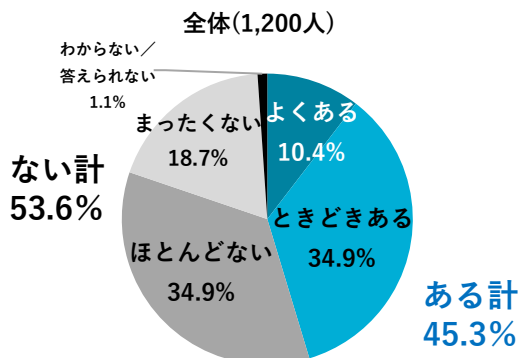
*小学生 = 4～6年生 ※以下同様

公益財団法人博報堂教育財団の調査研究機関：こども研究所では、全国の小学4年生～中学3年生を対象に、子どもをとりまくさまざまなトピックスについて、調査を実施しています。（一部項目は保護者にも聴取）
今回は、子どもたちに「学校」について聞きました。その結果、8割が「学校が好き」と回答しましたが、一方で、半数近くが「学校に行きたくないと思うことがある」と回答しました。行きたくないタイミングは「月曜日(26.8%)」が最も高い結果となり、一部の子どもには行きたくない気持ちが日常的なものであることがわかりました。
学校については「行くのが楽しみなところ」が5割の一方、「やりたくないことをやらされるところ」が4割と、複雑な気持ちがうかがえました。また、「修学旅行はあったほうがいい」が8割など学校行事には前向きでしたが、勉強は「みんなと同じ」より「自分の好きなことを」「自分の好きなペースで」が上回るなど、子どもたちの学校に対する要望も見えてきました。

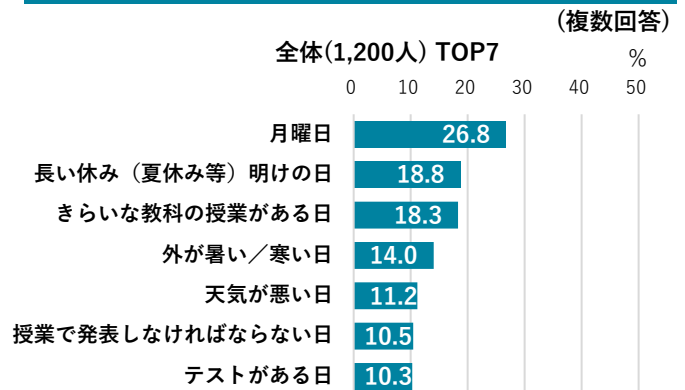
Q. あなたは、いま通っている学校が好きですか。



Q. 学校がある日に、朝、学校に行きたくないと思うことはありますか。



Q. どんな日に、学校に行きたくないと思いますか。



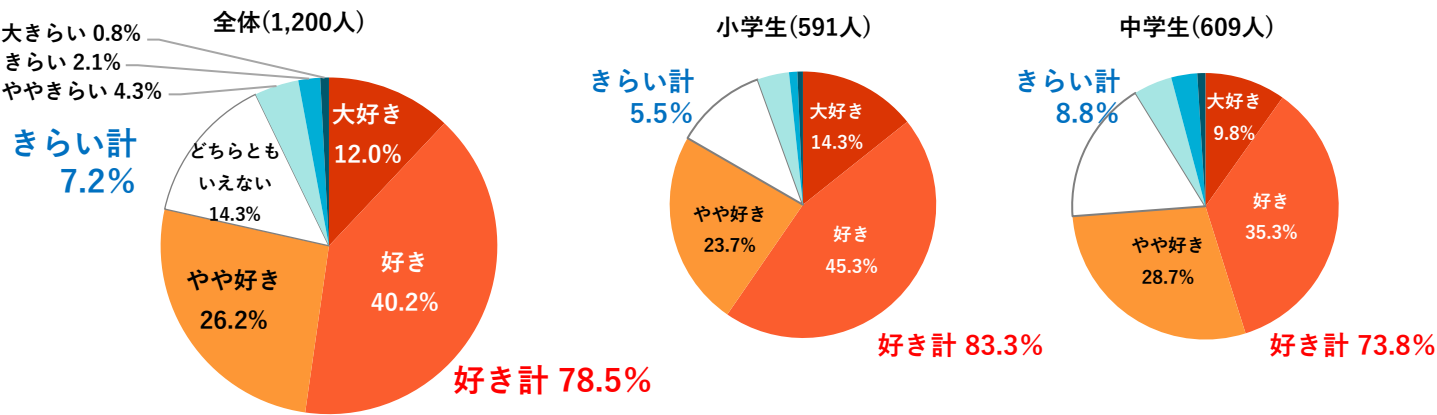
「令和の学校」調査結果のポイント

- 小中学生の8割は、いま通っている学校が「好き」。「好き」と「きらい」の分かれ目は、クラスや友だち、先生などとの関係性。
- 一方で半数近くは「朝、学校に行きたくないと思うことがある」。行きたくないタイミングは、4人に1人(26.8%)が「月曜日」。
- 学校は「みんなで力をあわせるところ」6割、「行くのが楽しみなところ」5割。一方で「絶対に行かないといけないところ」「やりたくないことをやらされるところ」も4割と、複雑な気持ちが見え隠れ。
- 学校についての意見：修学旅行は8割、運動会は7割「あったほうがいい」と学校行事には前向き。一方、勉強は「みんなと同じ」より「自分の好きなことを」「自分の好きなペースで」が上回る。

1. 小中学生の8割は、いま通っている学校が「好き」。「好き」と「きらい」の分かれ目は、クラスや友だち、先生などとの関係性。

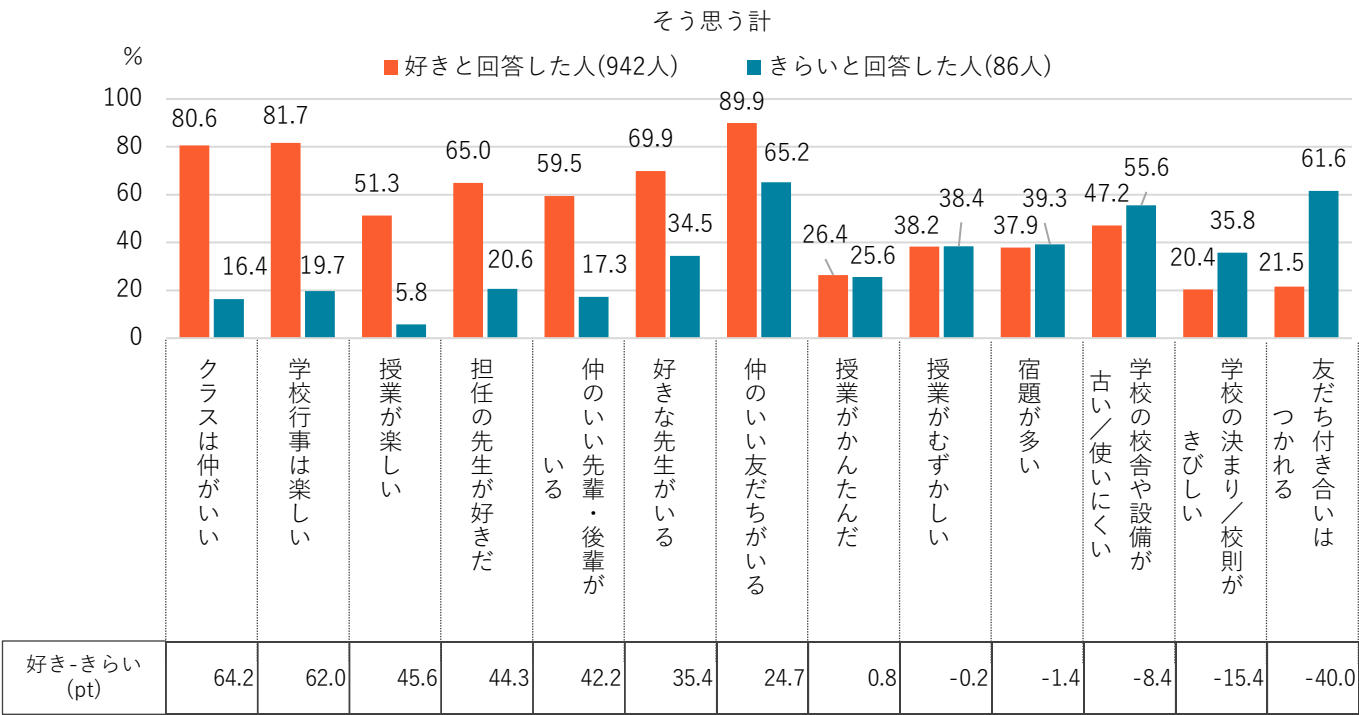
- いま通っている学校について、全体では「大好き(12.0%)」「好き(40.2%)」「やや好き(26.2%)」を合わせると、78.5%の人が「好き」と回答しました。
- 小学生/中学生別で見ると、小学生が好き計で83.3%に対して、中学生が73.8%と10pt近く低くなりました。
- 授業やクラス、先生、友だちなど学校生活への意識を、学校が「好き」と回答した人と、「きらい」と回答した人で比較すると、いずれも大きな差が見られました。
とくに、「クラスは仲がいい(「好き」と「きらい」の差分64.2pt)」「学校行事は楽しい(同62.0pt)」などで差が大きく、ほかに「授業が楽しい」「担任の先生が好きだ」、「仲のいい先輩・後輩がいる」、「友だち付き合いはつかる」でも40pt程度の差が見られました。授業の難易度や校舎／設備への意識には差がないことから、学習上の困難や施設の問題よりも、クラスなどでの集団活動や友だち、先生、先輩・後輩などとの関係性が、学校の「好き」と「きらい」を分ける要因になっていることがうかがえます。

Q. あなたは、いま通っている学校が好きですか。



■学校生活への意識(そう思う計、学校が「好き」と回答した人と「きらい」と回答した人の比較)

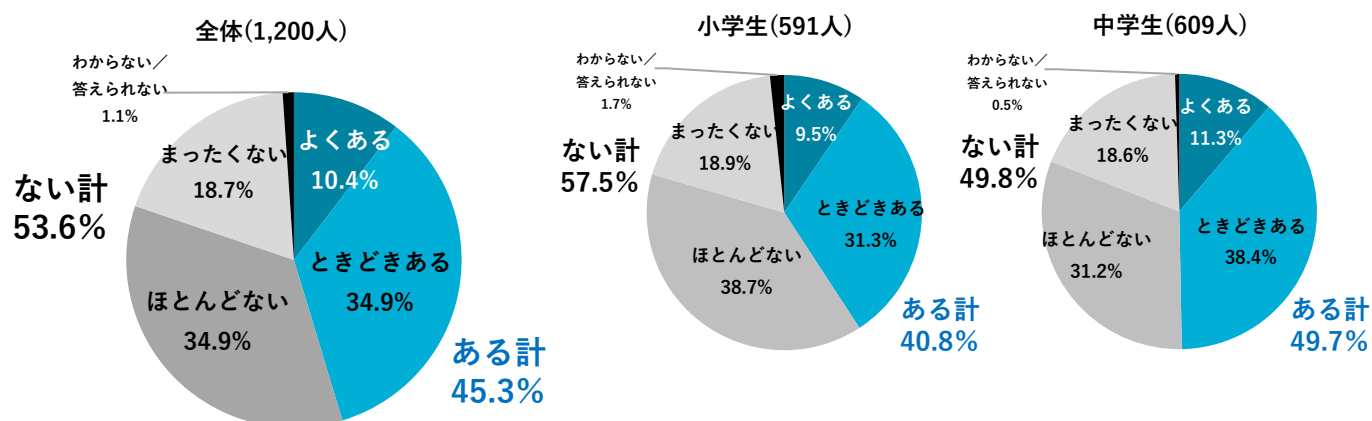
Q. あなたはいまの学校やクラス、学校での生活について、どう思いますか。あなたの気持ちを教えてください。



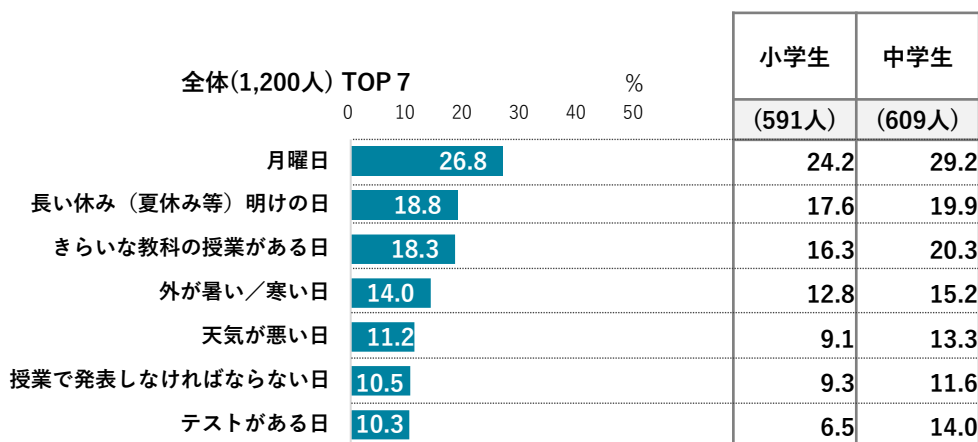
2. 一方で半数近くは「朝、学校に行きたくないと思うことがある」。行きたくないタイミングは、4人に1人(26.8%)が「月曜日」。

- 学校がある日に、朝、行きたくないと思うことがあるか聞いたところ、「よくある(10.4%)」「ときどきある(34.9%)」を合わせて45.3%の人が「ある」と回答しました。
- 小学生/中学生別で見ると、小学生より中学生のほうが、行きたくないと思うことがある計は9pt高くなりました。
- 行きたくないと思うタイミングは毎週おとずれる「月曜日(26.8%)」が最も高い結果となり、一部の子どもには行きたくない気持ちが日常的なものであることがわかりました。

Q. 学校がある日に、朝、学校に行きたくないと思うことはありますか。



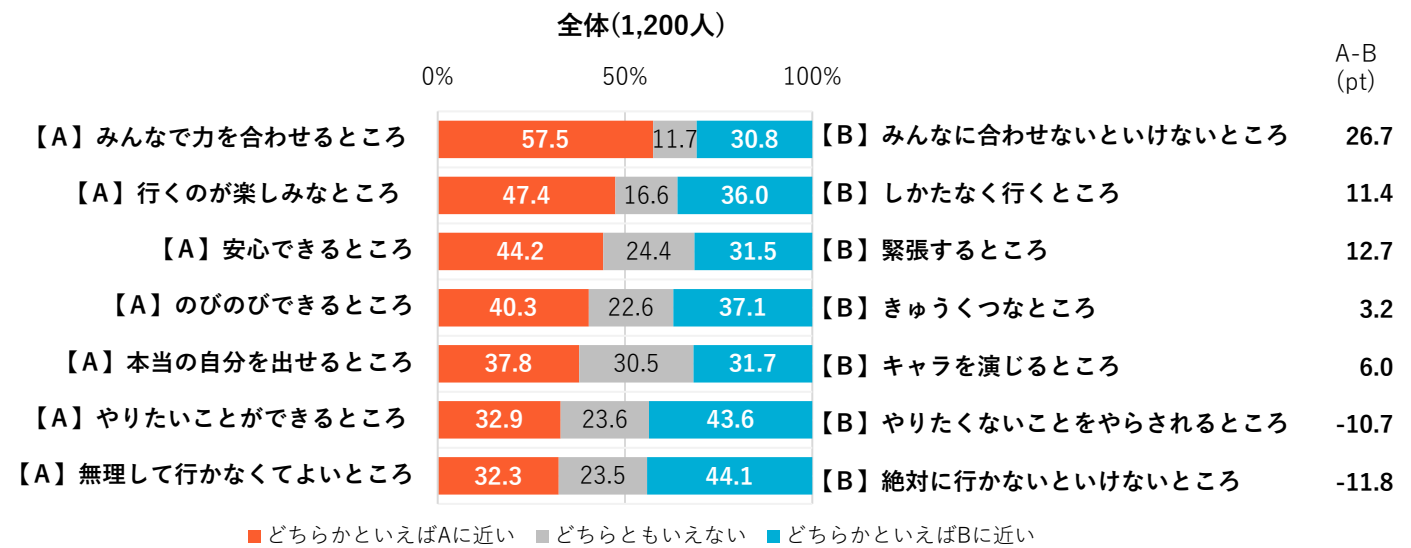
Q. どんな日に、学校に行きたくないと思いますか。(複数回答)



3. 学校は「みんなで力をあわせるところ」6割、「行くのが楽しみなところ」5割。一方で「絶対に行かないといけないところ」「やりたくないことをやらされるところ」も4割と、複雑な気持ちが見え隠れ。

- 学校についての気持ちを、対立する項目AとBからそれぞれ選んでもらったところ、「A:みんなで力を合わせるところ(57.5%)」「A:行くのが楽しみなところ(47.4%)」「A:安心できるところ(44.2%)」といった学校に対する前向きな気持ちを示す項目が、対比する項目を10pt以上上回りました。
- 一方で「B:絶対に行かないといけないところ(44.1%)」「B:やりたくないことをやらされるところ(43.6%)」も対比する項目を10pt以上上回り、「A:のびのびできるところ(40.3%)」と「B:きゅうくつなところ(37.1%)」は拮抗するなど、学校に対する気持ちの複雑さが垣間見える結果となりました。
- 小学生/中学生別で見ると、小学生から中学生で「A:行くのが楽しみなところ」が10pt近く下がり、「A:のびのびできるところ」より「B:きゅうくつなところ」、「A:本当の自分を出せるところ」より「B:キャラを演じるところ」が多数派になるなど、成長にともなって「学校」に対する気持ちが変化の様子がうかがえました。

Q. 「学校」について、あなたの気持ちに近いのは、AとBのどちらですか。ひとつ選んでください。



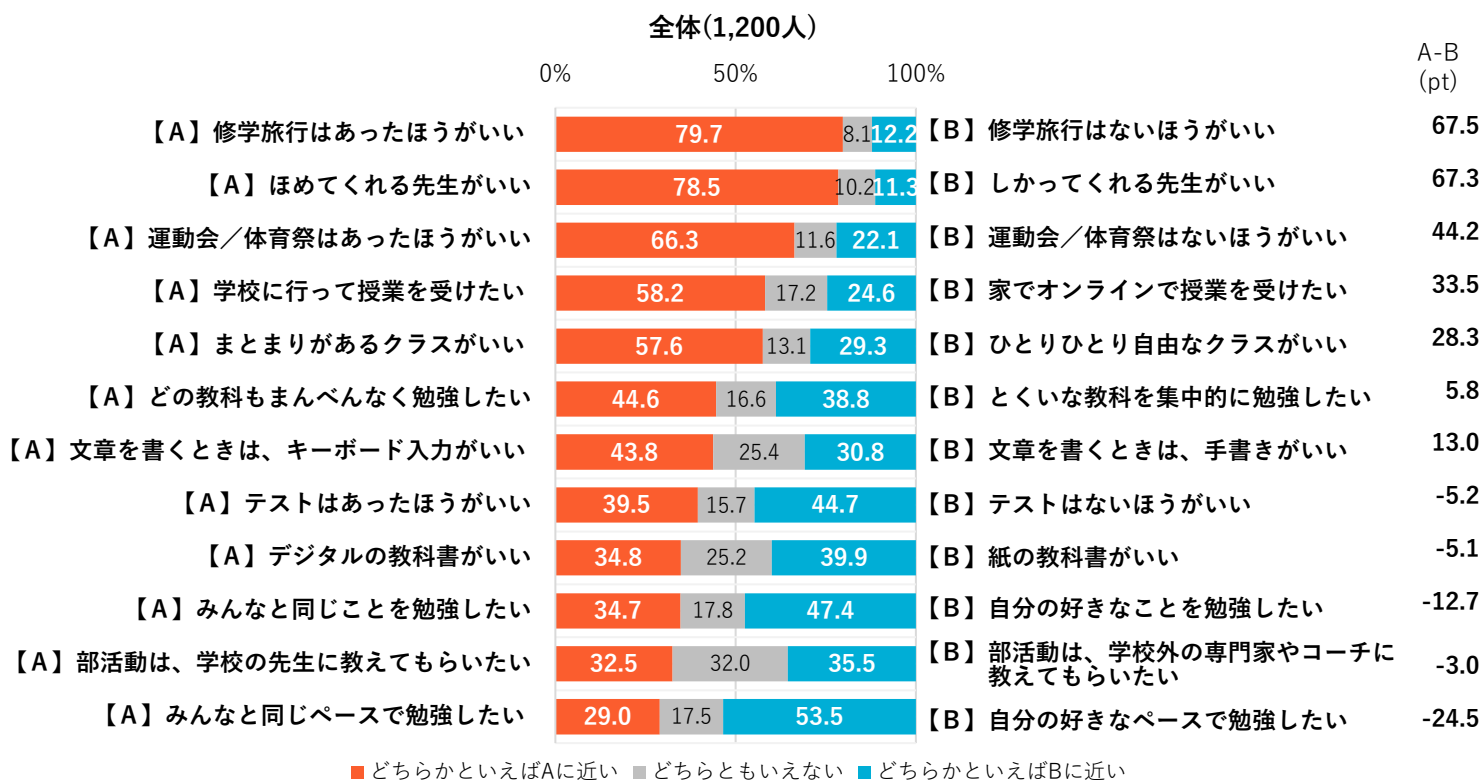
■小学生/中学生別

	上段：小学生(n=591)(%) 下段：中学生(n=609)(%)	どちらかとい えばAに近 い	どちらとも いえ ない	どちらかとい えばBに 近い		A-B (pt)
【A】 みんなで力を合わせるところ		61.3 53.9	11.5 11.8	27.2 34.3	【B】 みんなに合わせないといけないところ	34.1 19.6
【A】 行くのが楽しみなところ		52.2 42.8	15.9 17.2	31.9 40.0	【B】 しかたなく行くところ	20.4 2.8
【A】 安心できるところ		47.5 40.9	23.9 24.8	28.6 34.3	【B】 緊張するところ	19.0 6.6
【A】 のびのびできるところ		46.4 34.4	22.4 22.8	31.2 42.8	【B】 きゅうくつなところ	15.2 -8.4
【A】 本当の自分を出せるところ		43.9 31.8	27.8 33.2	28.2 35.1	【B】 キャラを演じるところ	15.7 -3.3
【A】 やりたいことができるところ		35.6 30.2	24.8 22.3	39.6 47.4	【B】 やりたくないことをやらされるところ	-4.0 -17.2
【A】 無理して行かなくてよいところ		34.3 30.4	24.5 22.6	41.2 47.0	【B】 絶対に行かないといけないところ	-6.8 -16.6

4. 学校についての意見：修学旅行は8割、運動会は7割「あったほうがいい」と学校行事には前向き。一方、勉強は「みんなと同じ」より「自分の好きなことを」「自分の好きなペースで」が上回る。

- 学校についての意見を、対立する項目AとBからそれぞれ選んでもらったところ、「A:ほめてくれる先生がいい(78.5%)」が圧倒的多数となったほか、「A:修学旅行はあったほうがいい(79.7%)」「A:運動会／体育祭はあったほうがいい(66.3%)」などの学校行事や、「A:学校に行って授業を受けたい(58.2%)」「A:まとまりがあるクラスがいい(57.6%)」など、学校における集団での活動を前向きに受け止めている子どもが多いことがわかりました。
- 一方、勉強については、「みんなと同じ」より「B:自分の好きなことを勉強したい(47.4%)」「B:自分の好きなペースで勉強したい(53.5%)」が上回る結果となりました。
- 小学生/中学生別で見ると、中学生になると「A:運動会／体育祭はあったほうがいい」が低くなるとともに、「B:自分の好きなことを勉強したい」「B:自分の好きなペースで勉強したい」という意向がより高くなる傾向が見られました。

Q.「学校」に関する次の意見について、あなたの考えに近いのは、AとBのどちらですか。



■小学生/中学生別

	上段：小学生(n=591)(%)	下段：中学生(n=609)(%)	どちらかといえばAに近い	どちらともいえない	どちらかといえばBに近い	A-B (pt)
【A】修学旅行はあったほうがいい	80.6	78.9	7.7	8.4	11.6	【B】修学旅行はないほうがいい 69.0
【A】ほめてくれる先生がいい	80.1	77.0	9.5	10.9	10.3	【B】しかってくれる先生がいい 66.1
【A】運動会／体育祭はあったほうがいい	70.0	62.8	11.4	11.8	18.6	【B】運動会／体育祭はないほうがいい 69.8
【A】学校に行って授業を受けたい	60.1	56.2	17.5	16.9	25.4	【B】家でオンラインで授業を受けたい 51.4
【A】まとまりがあるクラスがいい	58.7	56.5	14.5	11.7	26.7	【B】ひとりひとり自由なクラスがいい 37.3
【A】どの教科もまんべんなく勉強したい	43.8	45.5	17.8	15.4	38.4	【B】とくいな教科を集中的に勉強したい 37.8
【A】文章を書くときは、キーボード入力がいい	43.1	44.5	25.4	25.3	31.5	【B】文章を書くときは、手書きがいい 29.4
【A】テストはあったほうがいい	39.0	40.0	15.5	16.0	45.5	【B】テストはないほうがいい 32.0
【A】デジタルの教科書がいい	32.9	36.8	25.4	25.0	41.7	【B】紙の教科書がいい 24.7
【A】みんなと同じことを勉強したい	37.4	32.2	18.9	16.8	43.7	【B】自分の好きなことを勉強したい 5.4
【A】部活動は、学校の先生に教えてもらいたい	35.7	29.4	33.2	30.9	31.2	【B】部活動は、学校外の専門家やコーチに教えてもらいたい 6.3
【A】みんなと同じペースで勉強したい	32.8	25.3	18.0	17.0	49.2	【B】自分の好きなペースで勉強したい 11.6
					57.7	【B】自分の好きなペースで勉強したい 14.4

【参考】 「もし校長先生になったら何をしたいか」に1000を超える意見やアイデア。最も多い回答は「学校行事・イベントを増やす/力を入れる」。

- ・「もし校長先生になったら何がしたいか」を自由回答で聞いたところ、回答者1,200人中、9割近い子どもたちからさまざまな意見やアイデアが寄せられ、学校が「好き」だからこそいろいろ言いたい、という子どもたちの思いが伝わってきました。
- ・最も多かったのが「学校行事・イベントを増やす/力を入れる(78人)」。
- ・そのほか「校舎・設備の改善(66人)」や、いまの学校のルールを緩和したり、自由にしたりするアイデアが多数見られました。また、「生徒の意見を取り入れる(26人)」という学校運営に対する提言もありました。

Q. もしも、あなたがいま通っている学校の校長先生になったとしたら、毎日生徒が楽しく通えるようにするために、何をしたいですか。自由に書いてください。

■具体的な回答(抜粋)

□ 学校行事・イベントを増やす/力を入れる(78人)

- ・月一で校内行事でお笑いをやる。(小4男子)
- ・行事をもっと充実させる。運動会を昔に戻す。クラスの団結を高めるような活動を増やすなど。(小6女子)
- ・全員学校に来てほしいから、学校オリジナルの祭りとか考えて、楽しい行事を増やしたい。(小6女子)
- ・体育祭は年2回する。泊まりがけの行事を作る。(中2男子)

□ 校舎・設備をきれいにする/新調する(66人)

- ・トイレをきれいにして、教室もきれいにして、壁も塗り替える。(小4女子)
- ・体育館にエアコンをつける。(小5女子)
- ・校舎が古いから建て直す。(中1男子)
- ・プールの更衣室とトイレを綺麗にする。(中1女子)

□ 服装・髪型の自由化(51人)

- ・生徒一人一人が自由にしたい格好をして、好きな髪色、好きな髪型、スカートの丈も自由、靴下も自由、バッグも自由、セーターやベストも色の指定なしにして、先生が生徒の見た目を否定したり怒ったりするチャンスを奪う。(中3女子)

□ 校則の緩和/撤廃(39人)

- ・校則を1度なくして本当にいるものだけにする。(中1女子)
- ・校則を自由に出来る日を作る、例えば1ヶ月間は好きな格好で来れるとか。(中2男子)
- ・今の時代にそぐわない校則は積極的になくすか変える。(中3男子)

□ 宿題を減らす/無くす(37人)

- ・宿題なくす。学校いるときだけ勉強がんばる。(小5男子)

□ 休み時間を増やす(36人)

- ・休み時間をたくさんにして、たのしくのんびりする時間をたくさんにする。(小5女子)
- ・給食や授業間の休み時間をもう少し長くして、余裕をもって過ごせるようにする。(中3男子)

□ 生徒の意見を取り入れる(26人)

- ・アンケートをとって、学校について希望を集める。できるかどうか先生や教育委員会で話し合う。(小6男子)
- ・みんなの意見が通る自由な学校。個性を認めてのびのび過ごせる。(中2女子)
- ・ものごとを決める時多数決だけでなく少数派の意見も考慮する。(中2男子)

□ その他の意見

- ・登校するごとにポイントがたまって、たまると好きなものをもらえる。(小4男子)
- ・今の校長の考えが良いので多分同じことをすると思う。(小4男子)
- ・遊びタイムを増やす。いろいろな学年で遊べるイベントを増やす。(小4女子)
- ・1日1時間自由時間を作る。(小6男子)
- ・学年関係なく、自由な行き来ができるようにする。(小6男子)
- ・悪さする子には、きちんと叱る。先生が居ない時に悪さするから、休み時間も見守る。生徒から聞き取りして困ってる子に気付く。(小6女子)
- ・苦手な科目は生徒一人一人に合った学習プランを取り入れる。将来の目標、夢を明確にして授業に取り入れる。(中1男子)
- ・授業も、自分で選択できるようにする。教科書を廃止してタブレットにして、荷物を可能な限り軽くする。給食は、バイキングにして、自分で食べれる量を自分で考えて決める。生徒が主役の学校にする。(中1女子)
- ・担任の先生やクラスメイトを選べる学校。(中2女子)
- ・誰かが犠牲にならずに、負担をまんべんなく散らして、先生が辞めない学校。(中2男子)

調査結果に関する研究員コメント

昨今、不登校やいじめ、教員不足などで注目されることも多い「学校」ですが、当事者である子どもたちは「学校」についてどう思っているのか、気になっていました。結果を見ると、「学校が好き」と答えた子どもが8割と高い数字となりました。しかし、「好き」と答えた子どもも含め、学校にはいろいろ言いたいことがあるようです。いわゆる不登校の問題と一緒にはいませんが、4人に1人にある「月曜日」に学校に行きたくないという気持ちは、学校のあり方に対する子どもたちの問いかけなのかもしれません。

社会の変化を背景に、いま「学校」は大きく変わりつつあります。子どもたちにも、一人ひとりが自分らしくいられて、かつ「みんな」ということの意味が感じられる場所として、「学校」に要望や期待があることをあらためて感じました。

博報堂教育財団 こども研究所 上席研究員 福嶋由美

トピックス調査「令和の学校」調査概要

- ◆調査手法 : インターネット調査
- ◆調査実施日 : 2025年7月13日(日)
- ◆調査エリア : 全国
- ◆企画・分析 : 公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所
- ◆調査対象者 : 小学4年生～中学3年生とその保護者
- ◆実施・集計 : QO株式会社
- ※調査にあたっては事前に保護者の承諾を得て行っています。
- ◆調査パネル : 株式会社マクロミル
- ◆サンプル数 :
有効回答数 子ども1,200人、保護者1,200人
※居住地(全国6ブロック)×性別×学年による構成比に応じてウエイトバック集計を実施
※ウエイトバック後の子どものサンプル数は下記の通り
(整数で表示しているため、見かけ上の合計と一致しない場合がある)

学年	性別		計
	男子	女子	
小学4年生	100	95	195
小学5年生	101	96	197
小学6年生	102	97	199
中学1年生	102	98	200
中学2年生	105	100	204
中学3年生	105	100	205
合計	614	586	1,200

公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所について

【公益財団法人 博報堂教育財団】

博報堂教育財団は、児童に対する国語教育と視覚・聴覚障がい者に対する教育を助成し、あわせてその活動に関する調査研究を行うことで、健全な人間形成に寄与することを目的に、1970年に財団法人博報児童教育振興会として誕生いたしました。その後、2011年に公益認定を受け、2020年に現在の名称に変更しました。

設立から50年以上を経た今日では、「子ども・ことば・教育」を活動領域ととらえ、設立以来の事業である、児童教育の実践者を顕彰する「博報賞」をはじめ「児童教育実践についての研究助成」「教職育成奨学金」「海外の子どもたちとの日本語交流や日本語教育支援」「社会啓発事業」「調査研究事業」など、さまざまな活動を行なっています。

【公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所】

博報堂教育財団こども研究所は、弊財団の調査研究事業の一環で、2017年に設立されました。独自の調査や実験的な取り組みによって子どもの姿をありのままに捉え、子どもたちの可能性について新たな発見をし、それを社会と共有することで、子どもに対する見方やイメージの枠を広げていくことを目指しています。

こども研究所ホームページでは、調査研究の結果を広く公開しています。

<https://kodomoken.hakuhodofoundation.or.jp/>

本件に関するお問い合わせ

■ 公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所 福嶋・亀田

<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/contact/> (財団お問い合わせページ)